

寄稿

本学に大学院看護領域が開設され1年がたとうとしています。現在、3人の社会人学生が看護師としての専門性を高めるため、それぞれの研究テーマに取り組んでいます。指導する竹熊千晶教授に看護領域開設の意義などを寄せていただきました。(NL編集部)

大学院看護領域開設から1年

看護の社会的意義を再構築



保健科学研究科 竹熊 千晶教授

2023年4月から、本学の大学院看護領域に初めて3名の学生を迎えることができました。

3名とも社会人としてそれぞれの場所で看護師として働いています。

看護は実践の科学と言われますが、対象となる人の看護をとおして（それは学生でも社会人でも）対象となる人の「生命」「健康」「暮らし」を守り支える専門性のある仕事です。この行為が専門職であるためには、行っている行為（看護）を、エビデンスをもって探求していくことが重要です。

看護の意味を考え、言語化する。看護の社会的意義を再構築する。そして、それらのことからこれからの看護を考えていくことができる。どんなに小さなことでも看護にイノベーションをもたらす。それが、本学の大学院看護領域の使命だと思っています。今、それぞれの看護の経験から疑問に思ったこと、心に引っかかっていることを、看護の研究として「問い」を立てているところです。

しかしながら、社会人の彼らにとって、これまでの通常の看護師勤務をしながらの学びです。夜勤もあり、コロナ禍で管理業務などもこなさなければなりません。大学院の講義を受講し、レポートを書く、そして自分の研究テーマを明確にし、自分でスケジュール調整をして学修を進めていくという作業は、とてもハード

であったろうと推測します。だからこそ、時間を上手に使って自分が何を明らかにしたいのか、やろうとしていることが看護のなかでどんな役に立つのか、社会的な意義があるのか、深く深く考えていることと思います。

1年が経とうとしています。次年度はまた新しい社会人の院生が入る予定です。みなさんがやっているその姿勢が、看護学生や働く看護師のロールモデルになっていくことと思います。私たち教員は、そのナビゲート係！道を進むのはあなたたち自身ですが、最後までつきあいます。ともに頑張りましょう。



竹熊教授（右）と3人の大学院生たち

「感情赴くままの指導は危険」 ハラスメント防止研修会

キャンパスハラスメント防止研修会が16日（金）、1300L講義室であり、公益財団法人21世紀職業財団のハラスメント防止研修客員講師、山内理恵子氏がキャンパスにおけるハラスメントの特徴と背景、組織が行うべきハラスメント対策などについて講演しました。

山内氏はキャンパスにおけるハラスメントの特徴として、主に強い立場から弱い立場に対して起きやすく、発生する要因としては組織の固定化、雇用形態の多様化、学生の背景の多様化などを挙げました。代表的なセクシュアル、マタニティ、パワーのハラ

スメントにも言及し、それぞれの事例についても説明しました。また、学生指導に熱が入る教員に向けては「感情の赴くままに指導することは危険」と注意を促しました。

研修会はZoomも使用して開催。参加者からは「国家試験指導で、どの程度学生へ介入したらよいか」、「スモールグループでどういったことに注意すると学生の変化に気づけるか」などの質問があり、山内氏は丁寧に答えていました。

(入試・広報課)

社会人3学生ロールモデルに

教職員の見送りを受け、貸し切りバスに乗り込む看護学科の学生たち



言語聴覚学専攻の激励会で、次々と前に出て学生たちに最後の声掛けをする教職員たち

激励受け いざ大一番へ！

国家試験 合格祈り教職員らお見送り

8日（木）の助産師を皮切りに18日（日）の理学療法士と作業療法士まで、計7職種の医療系国家試験が行われ、本学からも計378人が大一番に臨みました。受験者は試験前日に会場の福岡市に出発。キャンパスでは各学科専攻の教職員が、「大漁得点」「合格祈願」などと書かれた旗を掲げ、貸し切りバスに乗り込む教え子たちを送り出しました。

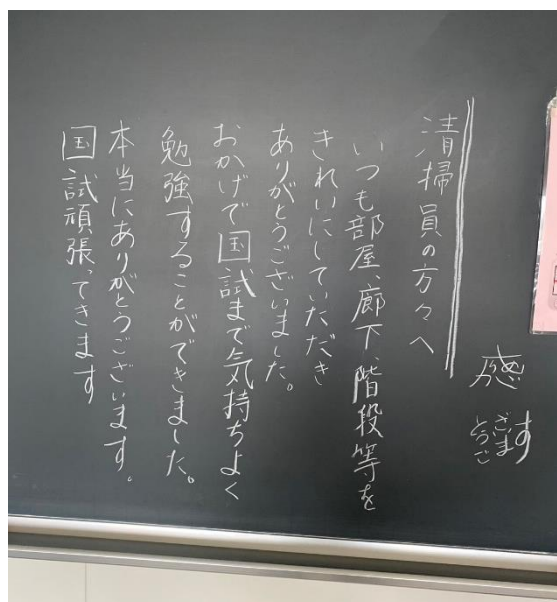
このうち、リハビリテーション学科言語聴覚学専攻では16日（金）、言語聴覚士国家試験を翌日に控えた4年次生38人のために3213実習室で激励会を開催。大塚裕一専攻長から順に教員たちが最後の声かけがありました。「ケアレスミスをしないように」、「ゆっくり眠れるように努めよう」、「これまでの頑張りを信じて」といった激励のほか、「（学生のために）昨日、カツカレーを食べてきた」といったユニークな声掛けもあり、学生たちは温かい雰囲気の中で、リラックスした様子で恩師の励ましを受け取っていました。

合格発表は、臨床検査技師、理学療法士、作業療

法士が3月21日（木）、助産師、保健師、看護師が同22日（金）、言語聴覚士が同26日（火）。（入試・広報課）



臨床検査技師国家試験に臨む学生たちを見送る教職員



感謝の気持ち 黒板に

黒板に大書された感謝の言葉。2号館のある教室に残されていました。書いたのは国家試験を前にしたリハビリテーション学科生活機能療法学専攻の4年次生。2号館の清掃を担当している(株)三勢の岩田昭弘さん（元総務課）、松永郁子さん、高倉勝子さんに向けたメッセージです。確実に育まれた「仁愛」の心を持ち、間もなく学生たちは春風のように社会へとばたいていきます。

（入試・広報課）

今週の1枚



初の「合同就勝ガイダンス」

医学検査学科、看護学科3年

医学検査学科と看護学科の3年次生を対象とした初の合同就勝ガイダンスを7日（水）、行いました。学科の枠を超え一堂に集った学生たちは、緊張感をもって臨みました。

冒頭、平川文文就職・実習支援課長が、就活を成功させるための「三つの訓」（一、未来を描くためには、過去を探れ／二、自分の弱点を認め、克服に努めよ／三、主体性と積極性をもって取り組め）を学生たちへ語りかけました。引き続き、学生たちは履歴書・面接・小論文の書き方や求人票の見方などを学びました。

ガイダンス終了直後には、15人程の学生が就職・実習支援課を訪れ、熱心に情報収集をしていました。いよいよ始まる就職活動、「主体的に行動」し成就させてもらいたいものです。

（就職・実習支援課）



初の合同開催となった医学検査学科と看護学科の「就勝ガイダンス」

私の秘話 ヒストリー

看護学科
岡 順子教授



続けています！ スロージョギング

今回は、8年前から続けている「スロージョギング」をご紹介します。

始めたのは、前職の職場の同僚でフルマラソンを趣味とするSさんに誘われたことがきっかけでした。学生時代はバスケットボール、その後は山登りに親しみ、もともと走ることに抵抗はなかったのですが、当時の年齢から「エッ、5キロ？ それは無理だわあ」。Sさん曰く「早歩き程度のスピードで大丈夫。岡さん、高齢の天皇（現上皇）陛下もやられているんですよ」との一言で参加しました。

健康福祉部12人の仲間と17時40分に

県庁を出発し、国府電停の脇から江津湖周遊、旧熊本市民病院、神水電停から電車通りを西へ、18時30分頃県庁に戻るという約5キロ、50分のコースを週1回。当初、若手メンバーに励まされながらの完走だったのですが、徐々に体力も付き、仲間のおかげで土日も自宅周辺を走るまでになりました。コロナ対応に追われた時期には、走る時間の確保が難しくなり、それでも週末に3キロ程度走ることができてきました。

これからも汗をかきかき、目指せ、アンチエイジング。

インフォメーション

週間行事予定（2月27日～3月4日）

2 / 29 (木)	研究費の適正使用に関する研修会	(15:00～ 1300L講義室)
3 / 1 (金)	情報セキュリティ研修会	(10:30～ 1300L講義室)
3 / 4 (月)	大学入学共通テスト利用選抜（後期日程）	